

Vol.41 Autumn | 2025.November

武蔵野ジャーナル

世界の幸せをカタチにする。
Creating Peace & Happiness for the World



Musashino University E.F.

学校法人 武蔵野大学

Musashino Journal

— 学校法人武蔵野大学報 —

武蔵野大学大学院

武蔵野大学

武蔵野大学高等学校

武蔵野大学中学校

千代田高等学校

千代田中学校

武蔵野大学附属幼稚園

武蔵野大学附属有明こども園

特集

未来を拓く、響創のカタチ

鼎談 学校法人武蔵野大学「第二期中期計画」始動

新設 ウェルビーイング研究科

通信教育部心理学専攻で活用スタート
学びの新たなサポート役「AI先輩」とは？

表紙コンセプト

武蔵野キャンパスに秋の訪れを告げるイチヨウ並木。青かった葉は、澄んだ風に揺られながら黄金色に染まり、キャンパスに集う人々をやさしく包む。その光景は、武蔵野大学での学びや活動が、今日も静かに、人々の心に小さな喜びを育み、未来へと広がっていくことを象徴しているかのよう。

表紙イラスト：tent

学校法人 **武蔵野大学**
Musashino Journal vol.41

2025年11月30日

学校法人武蔵野大学 広報課

〒135-8181
東京都江東区有明三丁目3番3号
TEL: 03-5530-7403
E-mail: kouhou@musashino-u.ac.jp
<https://www.musashino-u.ac.jp>

未来を拓く、響創のカタチ

特集1

鼎談 学校法人武蔵野大学「第二期 中期計画」始動

学校法人武蔵野大学は、「学校法人武蔵野大学グランドデザイン」に基づく10年間の長期計画を策定。「第二期中期計画（2025年度～2029年度）」で設置学校ごとに具体的な事業計画を設定し、ブランドステートメント「世界の幸せをカタチにする。」の実現に向けて各事業を推進中です。この5年間での取り組みや目指すすがたについて、武蔵野大学の小西聖子学長、千代田中学校・高等学校の木村健太校長、武蔵野大学附属幼稚園の村田悦子園長の3人に語ってもらいました。

武蔵野大学附属幼稚園

村田 悦子 園長

兵庫県西宮市出身。武庫川女子大学文学部初等教育学科卒業。銀行系システム開発会社の経験を経て、東京都立小学校教諭（音楽専科）となる。主幹教諭となったのち東京学芸大学教職大学院に派遣、修了（教育学修士）。東京都立小学校で副校長、校長を歴任し、現職。

武蔵野大学

小西 聖子 学長

愛知県出身。東京大学教育学部教育心理学科卒業後、東京都心理判定員を経て筑波大学医学専門学群卒業、医師免許取得。筑波大学大学院博士課程修了後、東京医科歯科大学（現東京科学大学）で犯罪被害者相談室を立ち上げる。本学専任教授就任以降、学部長や研究科長、副学長などを歴任し、現職。

千代田中学校・高等学校

木村 健太 校長

北海道出身。2009年より広尾学園中学校・高等学校で、生徒の主体性を軸とした研究的な学びを展開。東京大学先端科学技術研究センター客員上級研究員を務めるほか、内閣府総合科学技術・イノベーション会議、経済産業省、科学技術振興機構などの委員を歴任し、2024年度より現職。

Contents

特集「未来を拓く、響創のカタチ」

- 2 特集1
鼎談 学校法人武蔵野大学
「第二期中期計画」始動
- 8 特集2
新設 ウェルビーイング研究科
- 10 特集3
通信教育部心理学専攻で活用スタート | 学びの新たなサポート役「AI先輩」とは？
- 11 Pick up!
武蔵野大学文学部創設60周年記念シンポジウム
「創作と研究の対話
大学教育の現場から」
- 12 武蔵野大学中学校
種まきから染色まで、
2年生が「藍染め」を体験
- 14 千代田中学校・高等学校
自ら学びを深め、探究する楽しみを知る「ラボ」の時間
- 16 武蔵野大学附属幼稚園
年長さんと忍者修行！
親子で楽しむオープンスクール
- 18 武蔵野大学附属有明こども園
カラフルでプルプルの
スライムを作って遊ぼう
- 20 「学問の地平から」
教員が語る、研究の最前線
- 22 NEWS&TOPICS
- 23 Pick up!
武蔵野大学同窓会むらさき会
100周年記念式典・祝賀会
- 24 建学の精神
理想と人格 高楠順次郎先生が
私たちに投げかける宿題
- 25 学校法人武蔵野大学後援会
- 28 裏表紙／表紙解説

読者アンケートにご協力ください。
右の二次元バーコードより
アクセスできます。





「世界の幸せをカタチにする。」 ため設置校ごとに目標を設定

――まず、第二期中期計画において各校が重点分野としていることを教えてください。

小西 武蔵野大学は、「スチューデント・サクセスの実現を中心とする事業計画を推進しようとしています。私たちが考える「スチューデント・サクセス」とは、個々の学生が目指す将来像（なりたい自分）や目標達成等の自己実現に向けて、成長実感、達成感、納得感が得られる「個人としてのサクセス」と、建学の精神に基づく本学での特色ある学びを通して未来のウェルビー

個々の学生が自己実現に向けて、個人としてのサクセスと 社会におけるサクセスの2つのサクセスを実現する

イング社会の創造及び形成に資するスキル、能力、マインドを修得する「社会におけるサクセス」という2つのサクセスを、卒業するまでに実現することを意味しています。これらがきちんと実現されるように、AからEの5つのチャレンジ（ページ「武蔵野大学・大学院」を参照）を柱とした具体的な取り組みを盛り込んでいるのが本学の第二期中期計画です。

木村 千代田中学校・高等学校は島地黙雷師が創設した浄土真宗本願寺派の宗門校として、仏教精神に基づく宗教教育と国際理解教育を実施しています。その教育理念が生徒たちにも伝わりやすいように、学内では「自分もみんなも幸せになる」という言葉で表現していますが、これは武蔵野大学のブランドステートメント「世界の幸せをカタチにする。」とも通じています。幸せをカタチにする方法としては、アカデミアでの研究のほか、アントレプレナーとしてのビジネス展開、地域創成などのソーシャルイノベーションといった出口が考えられるでしょう。本学ではそのような多彩な出口を想定して、単なる学びではなく、中高生の発想や感性を軸として響的に進めることを重視しています。本学の学びの特徴の一つである研究活動では各分野を代表する専門家が参加し、彼ら自身も中高生からインスパイアされるような双方向の取り組みを大事にしています。

村田 大学や中高の考え方は、武蔵野大学附属幼稚園ともつながっています。人生100年時代といわれる今、長いスパンで見たときの幼児教育の重要性についてはさまざまな研究でも示唆されています。特に「体験」の大切さは私自身も強く実感していることです。人との関わりも含め、

ことです。教育の改革と空間の再編を進めるには教職員の意識改革も必要になりますし、全学体制で進めていきます。こうした事業計画をAからEの5つのチャレンジに整理したので、各領域に大学の将来計画をしっかり反映させて、実現に向けて推進していきたいと考えています。

木村 千代田中高はこの数年でかなり多くの取り組みをスタートしていますが、その中で私たちが重視しているのは「生徒が未来を創る」ということです。研究や学びの内容だけでなく、優秀さの定義すらも生徒自ら考え、そのためのマインドセットやスキルも生徒たちと創っています。学校の勉強についても、研究活動を通じて生徒本人の学びたいものを学ぶというカタチができてきました。例えば、もともと生物が得意で、iPS細胞を使って再生医療に貢献したいという生徒は、最新の研究論文を読むために英語を学びたいと思うようになり、細胞の培養液を調整するためにモル濃度の計算をする化学の知識を身に付けようとする。本校の教員たちは、そのような生徒たちの学びのストーリーと一緒に創造して、その一歩としての大学進学希望を叶えられるように存在です。とはいえ、中等教育機関だけではどうしても難しいことも多々あります。ファイナンスの問題やマーケティングの感覚などのMBA的発想は日本のカリキュラムでは手が回りませんので、今年度から中高生の数人が英国ケンブリッジ大学に行き、ユース向けのMBA特別プログラムに参加させてもらっています。

小西 それは先進的なプログラムですね。

重視しているのは「生徒が未来を創る」こと。今年から、 高校生たちが大学の価値を自ら考えて進路を選ぶとい う進路指導を始めています

木村 海外との連携ということでは、米国スタンフォード大学でSTEM教育の「A（アート）」にあたる、アイデアを生み出すためのマインドフルネスを学ぶプログラムに参加するなど、響的な学習をグローバル規模で展開しています。もう一つ、本学ならではの取り組みとしてぜひとも紹介したいのは進路指導です。今の日本は偏差値という指標で大学を選ぶざるをえない状況にありますが、英国の教育専門誌『タイムズ・ハイヤー・エデュケーション（THE）』のランキングを決めるアドバイザリーボードにも参加している先生から直接ランキングの実態を教えてください。高校生たちが大学の価値を自ら考えて進路を選ぶという進路指導を今年から始めました。

村田 大学生や中高生のように自分を主語として活動するには、自分を知る必要があります。幼稚園はその土台を創る場です。本園は、自分は何が好きで、何が得意なのかといったことを知る場でありたいと考えています。そのためプログラムとして、1日の保育の前半は自由保育の時間として、子どもたちがそれぞれ自分の好きな遊びや探究の対象を見つけて、徹底的に遊び込むことを大切にしています。後半の設定保育では、「僕が選んだ」「私がやりたい」と思えるような環境を設定し、「人への探究」「運動への探究」「科学への探究」「言葉への探究」「自分への探究」という5つの領域でプログラムを展開しています。本園は自然環境や

あらゆる方向での豊かな体験を幼少期にすることが、100年時代のウェルビーイングにつながると思います。その重要性を踏まえて、幼稚園では魅力的なプログラムを展開することを第二期中期計画の柱としています。このプログラムでは、発達段階に応じた深い探究心の芽生えを育むため、子どもが主語となる学びを展開し、自己肯定感を育むことを目指します。

小西 主体的な「問い」と「体験」を重視しているという方向性は武蔵野大学も同じです。第二期中期計画の最終年度である2029年までにA-Iをはじめとしたテクノロジーがどれほど進歩するかは予測できませんが、教育に与える影響はかなり大きいでしょう。そのような状況の中で大学に通って学ぶことの意味を改めて考え、大学教育の構造改革を進めていきたいと考えています。具体的には授業を含む大学全体の体験の質を高めること、良質なオンライン環境を展開すること、他者との対話を促す場を作ること、という3点を活動の軸にしています。

子どもたちが主体となり 質の高い体験を実践していく

――各校ではどのような教育プログラムを計画しているのでしょうか。

小西 大学生生活では、授業がない時間でも大学内で過ごす中で友人や教員との関係を深めることがとても大切です。学生のための共有スペースを拡張することを考えています。それと並行して、知識を増やす教科ではデジタルの強みを存分に活かしたオンライン環境を整備します。また、武蔵野大学の特色が色濃く表れているフィールド・スタディーズの授業でも、学外での活動をさらに強化して、体験の質・量ともに充実させます。重要なことは、これらを個別に行うのではなく、それぞれが連携しながら進める

物的環境が充実していることに加えて、人的環境に恵まれた大学附属であることも活かして、大学の先生や高校生によるプログラムも行われています。最近では、幼児の哲学対話というかなり先進的な言語研究プロジェクトを始めたところです。また、幼稚園にとつて特に重要なステークホルダーである保護者の要望を受けて、週2回、ウェルビーイングカフェという意見交換の場を作りました。

第二期中期計画1年目 子どもや教職員の変化に手応え

――第二期中期計画が始まって1年目ですが、子どもたちや教職員の変化を感じていることはありますか。

小西 学生の変化はなかなか実感しにくいですが、教職員たちは「変わるんだ」という意識が高





武蔵野大学附属幼稚園 ウェルビーイング・カフェ

小西 今回の中期計画で目指すのは「スチューデント・サクセス」ですから、その目標達成に向けてすべてのチャレンジをやりきることが一番の目標です。この大学に通う学生たちの学生生活が充実し、他の人たちにも勧めたいくなるような大学になることを目指していきます。

木村 千代田中高は今年度から校名が変わったばかりですから、まずは経営的に安定させるという大きな命題があります。それは私一人で行えることではありませんが、教員や生徒、保護者も応援してくれていますし、同窓会や外部の皆さんも加わったチームとして、主体的に楽しみながら取り組める体制を創っていきます。この中期計画でその土台を構築できるように、さらに努力していこうと思います。

村田 幼稚園の目標も、安定した園児の確保に尽きます。そして、数々の教育プログラムを通じて保育の質を高め、先生たちが「この園では子どもたちがこんな風に成長できる」と笑顔で語れるようになればと考えています。



武蔵野大学
令和6年度フィールド・スタディーズ アメリカ ロサンゼルス(LA)グローバル研修

まっているように見えます。「世界の幸せをカタチにする。」というブランドステートメントを掲げて10年目を迎え、各学部の教員の間にこのブランドステートメントが浸透していること、そして自分たちがそれを実施しているという気持ちが増えていることも後押しとなっています。アントレプレナーシップ学部やウェルビーイング学部といった他大学にはない学部の存在も、ブランドステートメント実現の一環であるとして認知され、それらの学部で学ぶために入学してきた学生が多数います。また、全学部の1年生が学外で活動するフィールド・スタディーズの効果も大きく、これまで積み重ねてきたことへの理解が深まっていることを感じます。

木村 本学は確実に生まれ変わってきたことを実感しています。先生方からは職員室の心理的安全性が高まったと言われ、多くの意見が出るようになりました。生徒たちの変化はさらに大きく、数学が苦手だから数学のラボ

各設置校の第二期中期計画

詳しくはコチラ



武蔵野大学・大学院

ウェルビーイング社会の創造及び形成に貢献する人材の育成・輩出を目指して「スチューデント・サクセス」の実現を推進する。この目標に基づいて5つの推進項目(チャレンジ)の事業計画を遂行する。

A: ウェルビーイング社会の創造に貢献する

Creativeな実践者の輩出

B: スチューデント・サクセスを実現する

響創的な学修の推進

C: MUのブランドに共鳴する学生の安定的な確保

D: 多様な学生・教職員が集い、

Creativeな実践者を育む体制の整備

E: 新たな教育市場と価値創出

武蔵野大学附属幼稚園

- 教育理念に基づく魅力的な教育プログラムの推進
- 園児及び保護者との信頼関係構築
- 安定して園児を確保できる体制の構築
- 施設設備等の環境整備

武蔵野大学中学校・高等学校

- 「世界の幸福とは何なのか」を考え続けるために必要な教育プログラムの充実
- 真なるグローバルな人材育成のための教育プログラムの充実
- サイエンスを身につけるための教育プログラムの充実
- 教員が改革推進に対して一致団結して取り組む体制の確立
- 生徒増に対応した教職員の充実及び適切な配置

武蔵野大学附属有明こども園

- 園児と保護者の満足度が高まる教育・保育の質の向上
- 園児が自発的に遊び込み、生きる力を身につけられるよう、わくわくプログラムを実施するなどの、教育・保育環境の充実
- 子育て支援プログラムの実施等による、地域の子育て支援拠点機能の向上
- 教育実習生やボランティアの積極的な受け入れ
- 2027年度以降の定員充足

千代田中学校・高等学校

- 世界の幸せをカタチにすることを目指した研究活動及び教育活動の推進
- 国内外の難関大学への進学者数(進学率)増加
- 新たな価値の創造と実現を目指した実学を重視した教育環境の構築
- 教員の教養力の育成と改革並びに組織体制の確立
- 戦略的な広報活動の展開
- 実効的な組織運営とガバナンスの強化



千代田中学校・高等学校 数論ラボ

村田 幼稚園では質的な変化と量的な変化が見られます。質的な変化としては、保育の見える化のために立ち上げた園内研究によって、教員たちから「やるべきことが可視化されてわか

に入ったという生徒は、3か月で飛躍的に数学の点数を伸ばしました。生徒の学びたい思いが成果に表れた例です。入口の部分では、受験生が増えたことはもちろん、特に中学では驚くほど優秀な子たちが受験してくれるようになりました。また、どの学校でも教員採用で苦労している中、昨年度はたくさん応募があり、他校の主任・部長クラスの先生、新卒の先生なども応募してくれていて、本当にありがたいと思っています。

発達段階に応じた深い探究心の芽生えを育むため、子どもが主語となる学びを展開し、自己肯定感を育むことを目指します

りやすくなった」と言われ、たくさんの意見が出るようになりました。幼児の哲学対話のように、こんなことをやってみたいと提案すると、すぐに実践してくれる教員もいます。そのように方向性を明らかにしたことで教員たちに一体感が生まれてきました。一方の量的な変化としては、オープンスクールの参加者数が前年比180%になるなど、本園に関心を持っているという手応えを感じています。また、途中入園の希望者も前年度を大幅に上回るペースで増えています。

設置校同士の連携を強化することで法人全体での可能性を拓く

— 今後、法人全体で連携するとしたら、どのようなことが考えられますか。

小西 今回皆さんとお話しして、どの学校の課題も似ていることがわかりましたから、法人全体で解決するようなキャンペーンなどが実施できればと思います。物理的な距離があるので難しいこともありますが、情報や広報などでつながれることがあるのではないのでしょうか。

木村 千代田中高は2016年に学校法人武蔵野大学と合併するまでずっと単独の学校法人でしたから、危機管理や情報管理、広報活動などにおいて十分ではないところがありました。合併後は法人全体でできることが増えたので、本当にありがたいと感じています。これからいろいろなことを教えてください。

小西 中高と大学で考えると、教員の人的交流にもメリットがありますね。本学にはサバティカル(教員の長期研修制度)があるのですが、少人数の学科だとなかなか利用できないのが実情です。教員が増えればサバティカル利用者も増え、教育の質の向上につながるはずです。

村田 幼稚園にも大学の先生や高校生が来てプログラムを実施してくれています。例えば、子どもたちと一緒に探究できるようなものができるというのを感じています。例えば、中高生の探究学習の一貫として、幼稚園のマスケットキャラクターを創るなどができるかと面白いのではないのでしょうか。

木村 千代田中高の研究コースの中にはプロのデザイナーが講師を務めるデザインラボがあるので、実現できるかもしれませんね。

— 最後に、第二期中期計画で目指すものやその先の将来で実現したいことを教えてください。



新設 ウェルビーイング研究科

2026年4月、武蔵野大学大学院に新しく「ウェルビーイング研究科」が開設されます。社会人も学びやすい授業スタイルと多彩な教授陣により、様々なキャリアを持つ学生がウェルビーイングに関する高度な専門性と実践力を養う場を提供します。格差や戦争、気候変動など、今世界が直面する課題を解決する志を持ち、生きとし生けるものすべてが幸せな社会づくりに貢献する人材を育成します。



ウェルビーイング研究科長(就任予定)
ウェルビーイング学部長
前野 隆司

日本初の

ウェルビーイング研究科

今回開設されるのは、日本で初めて「修士（ウェルビーイング）」「博士（ウェルビーイング）」の学位が取れる研究科です。ウェルビーイングとは「心と体と社会の良い状態」、幸せ、健康、福祉が充実していることを意味します。

今、世界には、格差と貧困、戦争・紛争、利己主義、環境問題など、深刻な課題が山積しています。さらにAIの進歩は間違いなく世界を大きく変えるでしょう。そうした激動の時代において、世界の諸課題を解決するキーになるのがウェルビーイングです。

「単にウェルビーイングを学ぶだけでなく、学びを活かして世界中の諸課題を解決する大きな志を持った人を育てる」。これが、本研究科

オンラインの両方で同じ講義を受けられる「ハイフレックス授業」を行います。受講しやすい方法を学生自身が選べるので、社会人学生も学びやすく、また世界中どこにいても学ぶことができます。もちろん学部を卒業したばかりの学生も大歓迎です。

ウェルビーイングは、社会人の学び直しやリスキリングに最適な分野です。人生100年時代を迎えた今、20代前半で学びを終わらせてしまっている人がいないです。その先の人生を豊かに過ごすためにも、キャリアの途中でウェルビーイングの最先端を学ぶことは、どんな人にとっても有益だと思います。

また、近年ウェルビーイングな職場や地域づくりのニーズが高まり、さらに製品・サービス、政治、教育など、あらゆる分野でウェルビーイングの専門家が求められています。仕事で既に何らかの専門家になっている人がウェルビーイングを深く学び、強みを増やせば、さらに活躍の場が広がります。異なる専門性、異なる世代の学生同士の学び合いは、さらに知を拡張させるでしょう。先ほどもお話ししたとおり、本研究科の目的は、みんなが世界の諸課題を解決し、みんなが幸せな世界をつくること。元々社会で活躍している人がウェルビーイングな仕事をすれば、社会により早くインパクトを与えることもできると期待しています。

教授陣が多彩であることも、本研究科の特長です。前学長の西本照真先生をはじめとする哲学・宗教学の専門家や、心理学、医療福祉、さらに私のように工学系出身でウェルビーイングの研究をしている者もいます。文系から理系まで、そして基礎研究者から実践家まで、多様な教員がそろいました。その多様な教授陣が数人のチームを組み、集団で研究指導を行います。狭い専門の世界に閉じこもることなく、教員同士が力を合わせて教

え、教員と学生が学び合う連携重視型の指導スタイルは、日本の大学院では新しいチャレンジです。

ウェルビーイングのヒントは100も200もあるのですが、その中には「あいさつする」「笑顔になる」といった「当たり前」のようなものもたくさんあります。大学院といえば最先端のことだけを学ぶ場と思われるかもしれませんが、当たり前前から最先端の知見まで学ぶような、いろいろな意味で「常識の逆」を行く研究科にしたいですね。

新研究科が

世界を変える起爆剤に

ウェルビーイングの視点で社会を変えれば、世界はより良いものになります。ただ、日本も世界も、それとは逆の力が強くなりつつあるのではないのでしょうか。私は本研究科を、世界が本当に変わるきっかけをつくる存在にしたい。くつもりです。楽観的すぎると言われるかもしれませんが、「小さな研究科一つで何ができるのか」と思われるかもしれません。しかし、明治維新の立役者を数多く輩出した松下村塾は、小さな私塾でした。社会の諸課題が噴出し、現在の現代は、江戸末期に似ています。本研究科は、松下村塾のように世界を変えていく起爆剤になることを目指します。

ウェルビーイングはまだ小さなうねりですが、確実に広がっています。多様な専門性を持つ学生が集まり、力を合わせて学び、ウェルビーイングをそれぞれのフィールドで実践すれば、数十年後には大きなうねりになっているでしょう。ウェルビーイングな世界への革新を先導する人材を育て、その仲間とともにより良い世界、より良い未来を創造していきたいと思っています。

が掲げる重要なコンセプトです。2500年前ブッダは「生きとし生けるものは幸せであれ」という言葉を残しました。利己主義や分断が横行する今、仏教精神を根幹とする武蔵野大学に本研究科が誕生し、世界の生きとし生けるものの幸せのために行動する、熱意を持った人を育てることは、大きな意義があると考えています。「世界の幸せをカタチにする。」を目的とする武蔵野大学の全学科・研究科に

横串を刺すような存在となり、日本でウェルビーイングを学ぶならここしかないと言われる研究科に発展させたいと思っています。

社会人学生が

学びやすいシステム

本研究科は、平日夜と土曜を中心に、対面と

ウェルビーイング研究科開設に向けて記者発表会を開催

ウェルビーイング研究科の新設に関する記者発表会が8月29日、武蔵野大学有明キャンパスで開かれ、小西聖子学長、前野隆司ウェルビーイング学部長（研究科長就任予定）、AIやデータ活用研究に取り組む日立製作所フェロー／ハピネスプラネット代表取締役CEOの矢野和男氏によるトークセッションなどを通して、新たな学びの場の魅力を発信しました。

発表会では、まず小西学長が「争いや不正が広がる世界でウェルビーイング

グを掲げることは、大学として強いメッセージになる。ウェルビーイングを学びたいと考える方が多くいることそのものが、未来の希望ではないか。皆さまとともにウェルビーイングにあふれた世界を築いていきたい」と新研究科への期待を語り、さらに前野学部長が新研究科の目的、特長、カリキュラムなどを紹介しました。

続いて、「AI時代に求められる『幸福』を追求する学び」をテーマに3氏によるトークセッションが行われ、AIの発展により働き方や社会が変化する中、人間性を育む教育の重要性、社会人がウェルビーイングを学ぶことの意義などについて意見が交わされました。



左から
前野 隆司ウェルビーイング学部長、小西 聖子学長、株式会社日立製作所 フェロー／株式会社ハピネスプラネット代表取締役CEO 矢野 和男氏

学びの新たなサポート役「AI先輩」とは？

この秋、武蔵野大学通信教育部に学生の学修をサポートする新たな仲間が加わりました。授業や学びの質にいつもでも答えてくれる対話型AIの「AI先輩」です。今回は、AI先輩に期待される役割や誕生秘話について、通信教育部教授の野口普子先生と、開発に携わった武蔵野大学スマートインテリジェンスセンター（MUSIC）の有馬宏先生にお話をうかがいました。

教科書に基づいて回答
プラスアルファの情報も補足

武蔵野大学が開発したオリジナル学修支援システム「AI先輩」は、通信教育部心理学専攻の学生を対象に、10月から利用が開始されました。ChatGPTをベースに、授業で使用している教科書に基づいて学生の質問に答えるだけでなく、教科書に記載のない内容は「先輩自身の考え」として補足し、学生の主体的で深い学びをサポートします。

生成AIの活用が教育現場で課題となる中、AIをはじめとする先進技術の教育現場への導入を推進しているMUSICのセンター長・林浩一教授の発案をもとに、通信教育部との協働によって誕生しました。

「通信教育部の学生は、わからないことを気軽に質問できる相手がいないので、モチベーション維持が難しいという課題があります。孤独感を和らげ、自分で学ぶ意欲を支えるツールを求めている中でこのお話をいただき、通信教育の新しい試みとしてぜひ一緒にやってみたいと思います」（野口先生）



通信教育部 野口 普子 教授

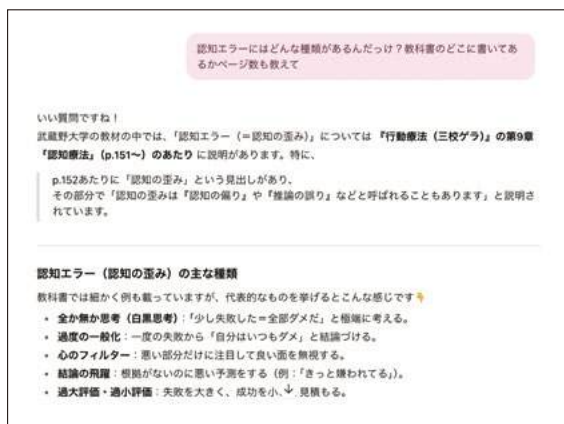
武蔵野大の学びに詳しい「先輩」
自学自習が多い科目へ導入

MUSIC 有馬 宏 講師

「AI先輩」ではなく「先輩」とした背景には、現在の生成AIの欠点を回避する狙いがあります。生成AIには「ハルシネーション」や「ボチヨムキン理解」と呼ばれる誤った内容をいかにも正しいかのようには返答してしまう問題があります。こうした特性は、教育現場で教員の代わりとなる「先輩」としての導入を難しくしています。そこで、AIを「先輩」と位置づけることで、多少の欠点があっても、学習者に寄り添い、参考意見を提示する「役立つ存在」として活用できるようにしています。「AIを先輩という形で教育に取り入れている大学は、まだ他にないと思います」（有馬先生）

また、学内で開発されたAI先輩は、武蔵野大学の学びに特化していることが強みです。「AI先輩」には科目を担当する先生ご自身が作ったテキストやスタディガイドを学習させているため、学生は一般的な情報ではなく、授業内容や先生の考え方に即した回答を得ることができます（有馬先生）

「通信教育部で使用している学習システムの情報も組み込んでいただいたので、学習方法やスクリーニングなどの情報に対応している点も特徴です」（野口先生）



実際に質問した際の回答

修了生トライアルでは好評の声
多様な「AI先輩」の可能性

AI先輩の導入は、時代に即した新たな学び

歌人・エッセイスト
穂村 弘氏作家・特任教授
町田 康研究者・客員教授
川村 裕子

武蔵野大学文学部創設60周年記念シンポジウム

創作と研究の対話 大学教育の現場から



あいさつをする 小西 聖子 学長



開会の辞を述べる 土屋 忍 学部長



司会進行 楊 昆鵬 学科長

町田康、穂村弘も加わりディスカッションへ

武蔵野大学文学部創設60周年を記念したシンポジウム「創作と研究の対話 大学教育の現場から」が8月1日、武蔵野大学雪頂講堂で開催されました。まず、土屋忍文学部長が開会の辞を述べ、60年の節目にあたり、これからも文学の礎を守るための教育活動を続けていきたいと表明。続いて小西聖子学長は、「本学において文学部はフラッグシップのような存在」として歴代の教職員や学生に敬意を表しました。

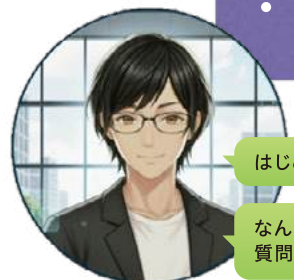
講演「大河ドラマの表現分析」と「折口を絡めた『万葉集』の研究」

講演では、平安時代の文学を専門とする川村裕子文学部客員教授が「大河ドラマ『光る君へ』の表現分析」を発表。シナリオの技法の一つで、非言語の表現である「シャレード（影）」について、ドラマ内に登場する渡り廊下・透渡殿を例に、登場人物の関係性や心情の変化によって同じ物であっても意味が変容すると分析しました。

次に、歌人・寺井龍哉としても活動する大島武由文学部専任講師が、「『万葉集』の研究と創作」折口信夫を例にと題して講演。国文学者で歌人の折口信夫は、『万葉集』の研究を通じて得た知識を小説『死者の書』に反映させるなど、研究者と創作を行き来すること、独自の表現を生み出したと指摘しました。

研究は運、才能はツチノコ？

創作と研究における才能についての議論の中で、川村氏は「研究者に必要なのは才能ではなく、論文を量産できることと良い指導者に会える運」と発言。町田氏は自分に才能があるとは思っていなかったとしつつ、「何で他の人はこれをやらないんだろうということに気づくかどうか、そこに至るコツのような



はじめまして
なんでも
質問してください！

通信教育部 人間科学部
人間科学科 心理学専攻 2年目
AI先輩

の体験を提供するという点でも大きな意味を持つ取り組みです。

「各専攻の専門的な学びに加え、AIを活用した新しい学び方に触れることで、学生の今後の生活がより豊かになるのではないだろうか。武蔵野大学通信教育部には20年を超える歴史がありますが、こうした新しい学びのスタイルを提供し、可能性を広げていくことが重要だと考えています」（野口先生）

利用開始前には、通信教育部の修了生の協力を得てトライアルを実施しました。「難しい定義もキーワードを広げて教えてくれた」「おすすめの図書も提案してくれるのでモチベーションアップにつながった」とおおむね好評でしたが、中には「もう少し年齢の高いキャラクターの方が親しみやすいのでは？」という声も。「トライアルの際アイコンは20代の若者をイメージしたイラストだったので、30・50代が中心の通信教育部の「先輩」としてはちょっと若かったのかもかもしれません」と野口先生。現在は落ち着いた雰囲気、男性のアイコンに変更されており、「今後AI先輩が増えるとしたら、いろんなキャラクターがいてもいいかもしれませんね」（有馬先生）

孤独を感じやすい通信教育の課題を解決し、時代に即した新たな学びの体験を提供するAI先輩。その「活躍」には大きな期待が寄せられています。



来場者からの質疑に思案する登壇者たち



最後に一言「閉会！」と述べる 町田 康 特任教授

ものが自然とわかるかどうか重要ではないか」「言葉に関しても、13歳くらいまでにどれだけ本を読んできたのかで決まるともいえる」といいます。穂村氏は、「才能はツチノコみたいな幻のようなもの」としながら、「短歌の場合、過去の作品のインプット量とは別に、その人の個人的な体験や置かれた環境の特殊性によって一瞬のスパークを生む可能性がある」「自分だけのコツというか、自分なりの回路を太くすること、そこに辿り着けるのは」と述べました。ディスカッション後には、「口訳 古事記」の著書もある町田氏が、「古事記」下巻・雄略天皇のくだりの口語訳を新たに披露。古典の本質を捉えつつ町田氏ならではの斬新な解釈の朗読が会場に響きました。

最後に来場者から「多様性の時代における宿命のあり方」「共通言語なき時代の表現と教育」について質疑があり、登壇者から真摯な回答がなされました。こうして4時間に渡る有意義なシンポジウムは町田氏の「閉会！」の一言で幕を閉じました。



武蔵野大学 中学校

種まきから染色まで、2年生が「藍染め」を体験

約3か月をかけた「藍染め」プロジェクト。夏休み明けの8月25日に藍の葉の収穫と藍染め体験を実施しました。



クラスごとに種をまいた藍の畑で葉を摘む生徒たち

今年度、2年生が取り組んだのは「藍染め」でした。このプロジェクトを統括した黒瀬先生（理科担当）に藍染めを選んだきっかけや目的についてうかがいました。

「今回、藍染めに取り組むきっかけとなったのは、かつて本校の生徒有志がタデアイの栽培と染色に挑戦した経験でした。調べてみるとタデアイは種子から育てることが可能で、栽培（理科から染色（技術科）まで一貫して行うことで教科横断型のプロジェクトになることから、生徒たちとともにぜひチャレンジしてみようと思いました」（黒瀬先生）

校内の畑作りから始まった「藍染め」プロジェクト

武蔵野大学中学校では毎年、各学年で「課題解決」に取り組む「プロジェクト型学習（以下、PBL Project Based Learning）」を実施しています。このPBLは1年生が「自己理解」、2年生が「他者理解」、3年生が「社会接続」という段階的なテーマを掲げ、毎年、先生方の創意工夫によって多彩なプロジェクトが展開されています。

プロジェクトはまず、5月中旬に藍の栽培と「藍染め」に関する動画を交えてプロジェクト全体を解説するオリエンテーションから始まりました。次に先生たちが校内の一角の雑草が生い茂る空き地を畑として整地し、クラス別の畝（うね）を作って、そこに個性あふれる生徒自作のクラス別の看板も作成。6月に入って四国・徳島から取り寄せたタデアイの種子を畑にまきました。

「生徒たちが交代でこまめに愛情を持って水やりや雑草取りをしたおかげで、芽を出したタデアイはすくすくと順調に育ちました。夏休み期間も有志の生徒と教員で水やりをしていました」（黒瀬先生）

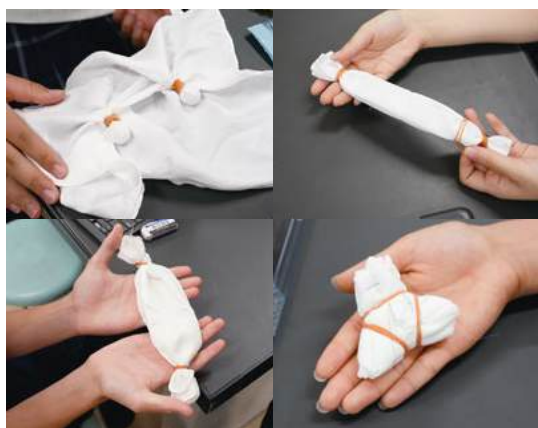
また、6月には都内の藍染め工房から職人の

方を学校にお招きし、生徒たちに藍染めの伝統と魅力、その手法について解説していただきました。ふだんは接しない職人の方のお話を聞くことは、2年生PBLのテーマ「他者理解」にもつながります。

そして8月25日、5・6限の時間を使っていよいよタデアイの収穫と染色を行いました。

プロジェクトを統括する黒瀬先生と3クラスの担任が、配布資料をもとにタデアイの葉の収穫、染液の作り方、各生徒が用意してきた布への染色の仕方についてあらためて解説しました。

今回の藍染めは収穫した生の葉を絞って抽出した染液で生地を染色する「生葉染め」という手法です。「藍染め」と聞くと思い浮かぶのは



輪ゴムやビー玉を使った絞り染めの下準備

きました。

いよいよ生徒各自が用意してきた布に思い思いの藍染めを！

黒瀬先生によると「緑色の染液から青色を生み出すのは酸化反応」だそう。そのため染色工程では酸化を促す空気に触れさせることが大切だそうです。ビニール手袋をした生徒たちはボウルに入れた染液の中で各自が持参した布（ハンカチ、スカーフ、タオルなど）を揉み込みながら広げ、揉み込みながら広げ……という動作を何度も繰り返していました。だんだんと青色に変わっていく様子が歓声をあげながら、生徒たちはみんなうれしそうな表情。同じグループで同じ染液を使っている、濃い青色に染まる布と淡い青色になる布がありました。黒瀬先生によると、一般的にシルクやウールなど動物性繊維は濃い青色に染まり、綿や麻などの植物性繊維は淡い青色に染まる傾向があるのだそうです。

絞り染めにチャレンジする生徒も多く、お互いに出来映えを見せ合いながら楽しい雰囲気の中に授業は終了しました。

「体験」でしか学べないことをPBLの機会に取り組み

種まき、栽培から「自然と向かい合う姿勢」を、そして染色作業を通して「ものづくりの面白さや工夫」を学んだ生徒たち。黒瀬先生は今回の藍染め体験を「担任の先生方と生徒たちが、栽培から染色まで楽しみながら取り組んでくれたおかげで意義あるプロジェクトになったと思います」と振り返ってくれました。「今後も、PBLの時間などを使って各学年の生徒たちに体験を通してしか得られないことをたくさん学んでほしいです」（黒瀬先生）



黒瀬 有紀 先生





千代田中学校・ 高等学校

自ら学びを深め、探究する楽しさを知る「ラボ」の時間

千代田中学校・高等学校の研究コースでは、生徒たちがラボに所属し、研究活動にチャレンジしながら、社会に新たな価値を生み出すことを目指しています。12あるラボのうち、数理工学ラボをはじめとした4つのラボの活動を紹介します。



数理工学ラボの様子

今年度から千代田中学校・高等学校に新設された「研究コース」。研究者、医師、アントレプレナー、デザイナーなど、社会の第一線で活躍する方が講師を担当しています。「幹細胞ラボ」「数論ラボ」「医療・命ラボ」など全12ラボがあり、生徒たちは大学の研究室に所属するようにそのいずれかに所属し、日々「研究」に取り組んでいます。ラボの活動は、最終的に学会発表や論文発表、政策提言、起業などを通じて社会に貢献することを目指しています。スタートから半年、今回は4ラボの研究活動の様子を紹介します。

■実験を通して物理現象を見て 数理的に理解する数理工学ラボ

「数理工学ラボ」は、身の回りのさまざまな現象を物理学と数学を用いてモデル化することにチャレンジしているラボ。担当講師は、武蔵野大学工学部数理工学科の櫻井建成教授と森竜樹講師です。2025年度は、中学1年生2名、高校1年生4名の計6名が所属し、研究テーマの選定から研究手法の検討、資料探し、データ分析、研究レポート作成などを生徒たちが主体となって進めています。

「このラボは数理工学ラボという名前がついていますが、必ずしも数理的に理解しなければいけないというものではなく、現象を理解する方法はさまざまです。私は、物理現象を数理的に理解するということを『自分自身の言葉で、論理的に説明できること』だと考えています。ただし、言葉だけ

試行錯誤できるように、実験の進め方についてのヒントを与えています。

「中学生たちには、ミルククラウンを見るという目的のために、どんな手法で実験を行い、どのように条件（パラメータ）を変化させるか、実験計画を立てる経験をしてもらいます。そのような実験を何回か繰り返し、『こを変えたらこのようなことが起きるのではないか』という感覚を掴んでもらえればいいですね（櫻井先生）

生徒たちは、水滴を落とす高さや受け止める水の深さを変えてみたり、水が跳ねる様子が見えやすいようにシャーレの下に白い紙を敷いてみるなど工夫を凝らし、最終的にはミルククラウンを撮影することに成功。まずは実験の第一歩を踏み出しました。

数理工学的な研究では、現象を正確に再現しデータとして捉えられるようにする「実験力」と、そのデータを分析、研究するための「数学力」が求められます。このラボでは、その2つの力を両輪として、さまざまな物理現象についての理解を深めていくとしています。

■医療／命ラボ

医療機関や創薬の研究機関（ツムラ漢方記念館等）などを訪れ、医療現場で働く人の想いや課題を直接聞くことで研究テーマを絞り込みました。女性のためのクリニックでの医師から話を聞いた高校生チームは、女性の健康や予防医療をテーマに研究を進めています。中学生チームは動物の病気や薬との関係について調べています。

では説明が難しい部分については、数学や物理の力を借りて記述する。それが数理の入口だと思っています」（櫻井先生）



数理工学科 櫻井 建成 教授

■研究を進めていくために高校 1年生から微積分にも挑む

高校生たちは、藤華祭（文化祭）での発表に向けて準備を進めていました。西洋建築に興味があるという女子生徒2人のチームは、ギリシャ神殿に見られるようなアーチ構造をテーマに研究。アーチ構造を数理的に理解するにはかなり複雑な計算が必要になりますが、発表では自分たちで模型を作成し、アーチ構造がどのようなものかを視覚的に理解してもらえよう工夫を凝らします。

1人の男子生徒は、時間論というかなり難しいテーマにチャレンジ。時間の捉え方に関するA系列とB系列について調べ始めました。もう一人の男子生徒は、硬い金属に弾丸のような柔らかい金

■数論ラボ

「抽象代数学」を背景に整数論・群論の入り口としてあみだくじの研究を行っています。中学生は「予想した通りの結果になるあみだくじ」の作り方を学び、自在に作れるようになりました。現在は縦線が4本のアミダくじをリスト化、知られざる性質を探しています。高校生は「完全数（自分の約数の和が自分の2倍になる）をモデルに約数の和がある条件を満たす整数の模索をしています。知られざる整数の性質を見つけようと全力で取り組んでいます。



■デザインラボ

千代田中学校・高等学校の新しいロゴをデザインした、アーティスト、アートディレクターの堀内肇さんが担当講師を務めています。

“自己表現”を中心とするアートと“情報伝達”を目的とするデザインの両方の観点を学びつつ、研究コースの12ラボを総称するシンボルマークを制作しました。今回は特に「広く周知させる」というデザインの目



研究コースの
シンボルマーク



生徒がデザインしたイラスト

属がめり込むときの動きを数理的に理解できればと研究を進めます。これらのテーマについて数理的に研究するには、高校2、3年生レベルの微積分の知識が必要になることもありますが、彼らは「現象」を理解するために、ハイレベルな数学の習熟にも熱心に励んでいます。その挑戦を支えるため、校内の数理科の先生たちも一丸となって、生徒と一緒に考えながらサポートしています。生徒と教員が互いに刺激を受け合い、共に成長していく姿が、ラボ活動の大きな魅力です。

■実験のしかたを学びながら 数理的研究の面白さを知る

中学1年生の2人は、ミルククラウンの実験に挑戦。水や牛乳などの液体を満した液面に、し



ミルククラウンの実験

的意識を強く持ち、その手法を用いて制作しました。引き続き、校内のさまざまなデザインを制作するべく研究を重ねています。

10月18日・19日に行われた藤華祭では、各ラボの高校生が4月からの半年間の成果を発表しました。ラボでの活動を通して、生徒たちは自らの興味を深め、学びの楽しさや探究の面白さを実感しています。こうした経験と挑戦の積み重ねは、生徒たちの未来を豊かに広げると同時に、本校のビジョンである「自分もみんなも幸せになる未来をつくる」に本気で取り組む力を育んでいます。



幹細胞ラボ発表



研究コースポスター発表

たたり落ちた水滴が衝突したとき、液滴の周囲に円環状の波が立ち、それが王冠のような形になる現象がミルククラウンです。

高校生レベルであればミルククラウンの原理を理解することを目指しますが、中学生は、「どうすればこの現象を再現できるか」という実験のしかたを考えると、そこから始めます。牛乳のように少し粘性ある液体の方が、ミルククラウンはきれいにできやすいといわれていますが、今回2人は、あえて水を使い、その瞬間を撮影することに挑戦しました。

実験のために用意したのは、水を入れたスポイト、スポイトを固定するスタンド、水を張ったシャーレ。実験の様子はiPadのカメラで撮影して、スロー再生することにしました。

櫻井先生は、生徒たちが自ら考え、手を動かし





武蔵野大学 附属幼稚園



元気いっぱい！年長さんの
「たけのこ体操」でスタート

オープンスクール当日は午前中から太陽が照りつける真夏日。給水のウォーターサーバーも各所に用意し、万全の態勢で臨みました。開場時間の午前10時が近づくにつれ、続々と未就園児とご家族が来場しました。

幼稚園舎内のホールに集まった未就園児親子



ニンニン！

の皆さんの前に、司会の先生の呼び出しとともに、行進しながら20名の年長さんたちがステージに登場。来てくれたみんなに声をそろえてあいさつすると、子どもたちに人気の「たけのこ体操」で元気よくおもてなしをしました。それを見た未就園児の子どもたちも楽しそうに一緒に踊り出します。でも、この日のほんとうのお楽しみはその次に待っていました。そう、幼稚園舎をめぐるながら、たくさんの「遊び」を経験できる「幼稚園探検」です。

幼稚園に忍者が登場！ 忍者修行にチャレンジ



たけのこ体操が終わると、司会の先生が「みんな！このあとは忍者が楽しいところに連れて行ってくれるよ！」と言って、忍者の姿になった先生を呼び出しました。

この日の「幼稚園探検」のテーマは「忍者修行」だったので。

案内役の年長さんとペアを組んだら、忍者から「たんけんカード」をもらって、いざ修行へ！年少から年長までの各教室には「くものすくぐり」「しゅりけん」「ボールころがし」「たからさがし」「かくれみのじゅつ」など、先生方が未就園児のために考え、年長さんたちとともに工夫を凝らした「忍者修行」の遊びが用意されていました。好きな順番で回る忍者修行は、一つ終わるごとにカードにスタンプがもらえます。

最初はこわい忍者修行にチャレンジしてい

年長さんと忍者修行！親子で楽しむオープンスクール

夏休みに入ったばかりの7月25日、武蔵野大学附属幼稚園オープンスクールの開催。たくさんの親子が参加され、盛況のうちに無事終了しました。

た子どもたちもどんな夢中になり、「やった！（手裏剣が的の）真ん中にあたってたぞー！」「みてみて！宝もの見つけたよ！」「しーっ！見つからないようにかくれて」などなど……教室からは、未就園児と年長さんの楽しそうな声が聞こえてきます。おとうさん、おかあさん、おばあちゃんなどご家族も、一緒に笑顔で楽しませていました。

年長さんの手づくり「しゅりけんメダル」をもらってゴール！



楽しかった忍者修行のゴールには、冷たくておいしいお水と、年長さんたちが心を込めて作った「しゅりけんメダル」のプレゼントが用意されていました。

すっかり仲良しになった年長さんから「おめでとうでござる！」とカッコいいメダルをかけてもらって「ありがと」と、みんなニコニコうれしそう。全員にメダルがかけられると、最後に年長さんが整列して「またあそぼうね！」と元気よくお別れのごあいさつ。そして参加した未就園児のみなさんには先生方から「お砂場セット」もプレゼントされました。

「幼稚園探検」終了後には、今春より着任された村田悦子園長からの教育方針や教育環境に関する説明、また各先生より園児たちの一日の流れや活動など、より具体的に園生活を紹介する「説明会」も開催され、ほとんどのご家族が参加されて熱心に耳を傾けていらっしゃいました。



保護者説明会の様子



オープンスクールのお土産にお砂場セットをプレゼント

園児の笑顔があふれる本園の魅力

最後に、今回のオープンスクールについて村田園長にふりかえっていただきました。

「未就園児の親子の皆さんが楽しそうに過ごされ、笑顔で家路に着かれた姿を見て、私も幸せな気持ちになりました。きっと参加された親子の皆さんにとっては思い出深い一日となったことと思います。近隣だけでなく遠方からも参加され「自宅からやや離れているけれど、来年からぜひ子どもを通わせたい」というありがたいお言葉も頂戴しました。オープンスクールは毎回先生方が子どもたちに楽しんでもらおうと張り切って取り組まれています。次回からも多くの方に参加していただき、園児が笑顔でのびのびと過ごす本園の魅力を多くの方に知っていただきたいと思います。」

「あいさつ」

村田悦子

今年4月、武蔵野大学附属幼稚園園長に着任いたしました。

これまで小学校教員、副校長、校長を務めてまいりましたが、学習が基本となる小学校と異なり、幼稚園では「遊び」を通して一人ひとり異なる子どもたちがのびのびと学び、個性を伸ばしていきます。本園の先生方はベテランから若手まで、全員が情熱と豊かなアイデアを持って子どもたちの成長をサポートしています。そして豊かな武蔵野の自然環境と、大学・中学校・高等学校のおにさんおねえさんたちに囲まれた多様性あふれる人的環境によって、「一人ひとりが「好き」や「得意」を見つけることで「深い探究心×高い自己肯定感」を引き出し、20年後のウェルビーイングを目指す」教育実践を展開していきます。オープンスクールや園見学、園庭開放など、そうした本園の教育や環境を地域の皆さまに体験していただける機会を年間を通して数多く設けております。

今後も先生方と力を合わせて本園をより魅力的な幼児教育・保育の場にしていくとともに、広く地域に本園の特色と魅力を積極的に発信していきたいと考えております。





武蔵野大学附属
有明こども園

カラフルでプルプルのスライムを作って遊ぼう

武蔵野大学の教員などが指導する「わくわくプログラム」の一環として、子どもたちがスライム作りに挑戦。できたスライムを握ったり伸ばしたりしながら楽しく遊びました。

ちよつと難しいスライム作り
ハカセと一緒にやってみよう

6月24日、武蔵野大学附属有明こども園で、4歳児クラスの子どもたちがスライム作りにチャレンジしました。

スライム作りは、有明こども園が取り組む「わくわくプログラム」の一つとして、子どもたちに大人気の活動です。スライムの材料は、水、PVA（ポリビニルアルコール）が入った洗濯のり、ホウ砂の水溶液、食用色素の4つ。それを混ぜ合わせると化学反応が起き、プルプルしたスライムができます。

この日、「ハカセ」としてスライム作りを教えてくださいましたのは、武蔵野大学教育学部教育学科の田村正弘特任教授です。白衣に身を包んだ田村先生は、まず初めに、スライムを口に入れたり食べたりしないことを子どもたちと約束して、「スライムを作るのは難しいです。だけど、ハカセの言う通りにするとうまくいくからね」とアドバイスを。いよいよスライム作りがスタートしました。

まほうの薬を入れて混ぜたら
あつという間に「できた！」

最初のステップは、透明なコップに水と洗濯のりを入れて、その中でスプーンを洗うこと。4、5人のグループごとに材料が用意され、子どもたちは順番にスプーンでコップに材料を移していきます。水とのりの量は、どちらも計量ス



プーン（大さじ）すり切り1杯ずつ。量をそろえるのが成功のポイントですが、子どもたちにはまだ少し難しく、スプーンに半分程度でコップに入れてしまう子も。園の先生と田村先生はグループを回りながら「スプーンからこぼれそうでこぼれないぐらいギリギリまで入れよう」「ゆっくり、ゆっくり」と声を掛けて見守ります。

次は、水とのりを入れたカップに食用色素を入れて色を付けます。赤、青、黄、緑、ピンク、オレンジ、紫の中から、それぞれ好きな1色を選んで先生に色素を入れてもらって、子どもたちは「きれい」と大喜び。最後にコップに入れるのは、田村先生が「まほうの薬」と呼んでいるホウ砂の水溶液です。

「まほうの薬を大さじ1杯入れたら、割りばしでいっぱいかき混ぜよう！」

田村先生がそう言うのと、子どもたちはコップの中を一生懸命ぐるぐるかき混ぜ始めました。



武蔵野大学教育学部
田村 正弘 先生

すると、サラサラしていたコップの中身は、あつという間にネバネバに。もつと混ぜると、今度はプルプルに変わりました。その変化を体験した子どもたちは大喜び。「すごい！」「ハカセ見て！できたよ！」と、保育室のあちこちからうれしいうな声が上がりました。

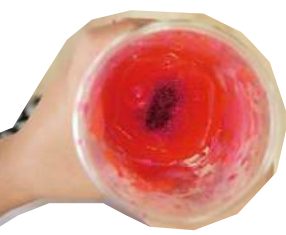
うまうまかなくても
先生ともう1回チャレンジ



できたスライムは、コップを逆さまにしてもなかなか出てこないほどの固さに。コップからスライムを取り出すと、子どもたちはその手触りにもびっくり。「冷たくてプルプルしてる」「おもちゃに似てる」「生きてみたい！」「手のひらにのばいに広げるように伸ばしてみたり、両手でこころ丸めてみたり、端をつまんで持ち上げてみたり、スライムの不思議な触り心地を楽しみながら、思い思いに遊び始めました。うまうまプルプルにならなかった子は、田村先生や園の先生と一緒に一度チャレンジ。スプーン1杯を慎重に量って、しっかりと混ぜると、今度は大成功！不安そうな表情も笑顔に早変わりです。すっかりスライムに夢中になり、「先生、もう一回！」「お願いする子も、作ったスライムは、家でも遊べるようにラップに包んで持って帰ることにしました。」

感性を刺激する体験が
将来の成長の種に

大学では学生に理科教育を指導している田村先生ですが、実は長年小中学校に教員として勤務した経験を持つ「現場のプロ」。この日は、あえて白衣姿のハカセとして登場し、外見から子どもたちの好奇心を刺激したいといいます。



渡邊 光一 園長

「白衣を着た大人が話をすると、ぐつと興味を引かれると思うんです。スライム作りは小学生にも人気の科学プログラムですが、今回は4歳児さんなので、科学的な探究というより材料を混ぜて違うものを作る経験を通して、スライムの感触などを通して感性を刺激することを大切にしました。こども園での活動はこちらの想像通りには進まないのが楽しく、私も伝え方の勉強になります」（田村先生）

有明こども園の渡邊光一園長は、「幼児期はまださまざまな体験をして興味関心の『種』を植えることが大切」と、スライム作りをはじめとするわくわくプログラムの活動に期待を寄せています。「まずは遊びの中で面白がったり驚いたりすることが重要で、そこから芽が出て、いずれ科学に関心を持つてくれる子も出てくるでしょう。今後ともこうした感受性を養うようなプログラムを提供していきたいので、保護者の皆さんもぜひ楽しみにしていただきたいですね」。自分で作ったスライムのツルツルプルプルの手触りは、楽しい思い出になり、いつか子どもたちが未来を開く力になるかもしれません。



「学問の地平から」

教員が語る、研究の最前線

本学の教員は、教育者であると同時に、第一線で活躍する研究者でもあります。本企画では、多彩な教員陣へのインタビューをもとに、最新の研究と各分野の魅力を紹介していきます。



自然の仕組みに学び サステナブルな社会をデザインする

サステナビリティ学
工学部 サステナビリティ学科
明石 修 准教授



気候変動、生物多様性の減少、コミュニティの希薄化など、私たちが生きる現代社会はさまざまな問題を抱えています。こうした問題を乗り越え、サステナブルな未来をつくるため、世界中でさまざまな研究や実践が進められています。自然共生システムを専門とする明石准教授が取り組んでいるのは、地球や自然の仕組みに学び、人と自然がどちらも豊かになる社会をデザインするための研究です。有明キャンパスの校舎の屋上を利用したコミュニティガーデンなどについて探究する明石准教授の研究を紹介します。



SNS、AI時代のマーケティングコミュニケーション

経営学(マーケティング)
経営学部 経営学科
松井 彩子 講師



多くの人がSNSを使って情報収集している今、企業活動においてもSNSの活用は最も関心の高い分野の一つになっています。松井講師は企業がSNS上で展開するマーケティング活動に注目し、企業と消費者が互いに与える影響力を解き明かす研究に取り組んでいます。SNS、さらにAIが社会に浸透する中、デジタル時代の新たなマーケティングコミュニケーションにアプローチする松井講師の研究を紹介します。



日中両国の架け橋として文学研究と翻訳・通訳者育成に力を注ぐ

比較文化学
グローバル学部
グローバルコミュニケーション学科
国際センター長 榎 殿武 教授



『阿Q正伝』や日本の国語教科書に掲載されている『故郷』などで知られる中国の作家、魯迅(ろじん・1881～1936)。中国出身の榎 殿武教授は魯迅の作品に見られる夏目漱石の影響に関心を抱き、日本に留学していた時代の魯迅の生活、さらに魯迅と同じ時代に日本に留学していた中国人留学生の生活を研究テーマとしています。また日本語と中国語の翻訳、通訳者としても活躍しており、武蔵野大学では留学の促進や海外からの留学生受け入れなどを担当する国際センター長も務めています。



自然界のパターンの仕組みを数学で解き明かす

現象数理学
工学部 数理工学科
上山 大信 特任教授



身の回りにあるさまざまな現象を、数学を用いて解明していく現象数理学。その世界に触れると、私たちが日々当たり前のように見ている生物現象や物理現象の裏側には、たくさんの数式が隠れていることに驚かされます。今回は、現象の中でも自然界に存在するさまざまな模様や形に着目し、その背景にある仕組みに数学からアプローチしている上山特任教授の研究を紹介します。



教師の知を探る 優れた“わざ”を共有可能なものに

教育学
教育学部 教育学科
中村 駿 准教授



教師は、学校教育においてとても重要な役割を担う存在です。授業や日常生活の中で子どもたちが見せるちょっとした成長の芽を見つけ、その芽を伸ばしていくため、教師はさまざまな“わざ”を駆使しています。教師がそうしたわざをいかにして身に付けることができるのか、教師の学びと成長をテーマに研究を行っているのが中村准教授です。教師の認知や思考を分析し、優れた教師の知を伝承可能なものにすることを目指す中村准教授の研究を紹介します。



「最後のフロンティア」アフリカと日本の関係深化をめざして

国際政治学・アフリカ
法学部 政治学科
中村 宏毅 准教授



近年、国際関係において重要な位置を占める「グローバルサウス」の国々。中でもアフリカは国の数が54カ国と多く、経済や政治などさまざまな領域で存在感を増しています。各国がアフリカ諸国との関係強化に乗り出す中、日本はこれからアフリカの国々とのような関係を築き、発展させていくことができるのか、外交官の実務経験を生かして検討を進める中村准教授の研究を紹介します。



「専門家の知識」という宝をデータベース分析に生かすために

データサイエンス学
データサイエンス学部
データサイエンス学科
浦木 麻子 准教授



現代の社会では日々多種多様で膨大なデータが蓄積されています。浦木准教授は、そのビッグデータの分析に人間が得意とする「意味」の視点を取り入れ、専門家が持つ経験や知識を分析結果に反映させる方法論の確立を目指して研究を進めています。より良い未来をつくるため、人類の歴史が積み重ねてきた知識という“宝物”をデータベースの分析に活用しようと力を尽くす浦木准教授の研究を紹介します。



医薬品からIT機器まで 私たちの生活は有機化合物でできている

有機合成化学
薬学部 薬学科
穴田 仁洋 教授



「有機合成化学」は石油製品・化成品やバイオマスといった安価で単純な構造をもつ化学物質から、新しい医薬品や新素材開発などにつながる付加価値の高い有機化合物を合成することを目指す研究分野です。本学薬学部「有機合成化学研究室」で学生とともに日々合成研究に取り組む穴田教授に、研究の面白さや意義についてお話をうかがいました。



少年非行を防ぐスクールソーシャルワーク実践を考える

社会福祉学
人間科学部 社会福祉学科
中西 真 准教授



少年犯罪の検挙件数は全体的に減少傾向にありますが、社会の耳目を集めるような少年による凶悪事件は、毎年のように起きています。その一方で、近年、非行の背景として、家族関係や貧困など子どもを取り巻く環境の影響が指摘され、非行防止の観点からも、厳しい生育環境に置かれた子どもをいかに支援するかが大きな課題となっています。この課題に対して、学校を拠点とするスクールソーシャルワーク実践の研究を通してアプローチしているのが中西准教授です。社会の希望である子どもたちの幸せのため、暴力的な関わりのない社会づくりを目指す中西准教授の研究を紹介します。



臨床経験の振り返りを看護の向上につなげるために

基礎看護学
看護学部 看護学科
羽入 千悦子 准教授



看護の世界ではよく「看護は実践の科学である」と言われます。看護学は患者へのケアという実践と切り離して考えることはできず、看護教育においても、学生たちが実習の経験をいかに将来に役立つ学びに繋げられるかが重要です。そして、経験から学びを導き出すためには、経験の「振り返り」が大きな鍵を握っています。羽入准教授は、看護教育における経験学習の在り方にスポットを当て、看護現場での経験を積み上げ、学びに繋げる方法に関する研究に取り組んでいます。



音楽と舞踊と演劇が融合する能・狂言 研究を通じてその美に触れる贅沢な時間

音楽学
文学部 日本文学文化学科
能楽資料センター長
三浦 裕子 特任教授



国の重要無形文化財であり、ユネスコ(国連教育科学文化機関)の無形文化遺産に指定されている能・狂言(能楽)。武蔵野大学武蔵野キャンパスにある「能楽資料センター」は、世界に誇るべきこの日本の伝統芸能を研究し、公開講座や鑑賞会などを通じた普及啓蒙活動にも取り組んでいる研究機関です(1972年に設立)。現在、センター長を務める三浦裕子特任教授は「音楽」の視点から能・狂言にアプローチしています。研究への取り組みと能・狂言の魅力についてお話いただきました。



Pick up!

武蔵野大学同窓会むらさき会

100周年記念式典・祝賀会



平山 眞見 会長 挨拶



名誉会長・小西 聖子 学長 ご挨拶



司会 俳優・渡辺 裕太さん 2012 (平成 24) 年人間科学部 社会福祉学科卒業



祝賀会のお料理



式典アトラクション 和太鼓奏者・塚本 隼也さん 2016 (平成28) 年 教育学部児童教育学学科卒業

2025年5月31日(土)、帝国ホテル東京「孔雀西の間」にて、武蔵野大学同窓会むらさき会100周年記念式典・祝賀会が開催されました。当日は、千代田女子専門学校の卒業生から2025年卒業生まで、幅広い世代の同窓生に加え、諸先生方や大学関係者など総勢408名が出席しました。

式典では、平山眞見会長と名誉会長の小西聖子学長よりご挨拶をいただき、同窓会を次の世代へとつなぐ大切さが語られました。続く祝賀会は立食パーティー形式で行われ、落合貴代子前会長のご祝辞、出席された先生方のご紹介の後、三樹潤子元会長の乾杯で華やかに幕を開けました。懐かしい先生方や旧友との再会に、会場には笑顔と歓談の輪が広がりました。

司会は俳優の渡辺裕太さん、アトラクションには和太鼓奏者の塚本隼也さんを迎え、会場は終始盛り上がりしました。100周年という節目を祝う特別なひとときとなり、同窓生たちの絆の深さと大学への思いの強さをあらためて感じられる会となりました。

NEWS & TOPICS



副専攻(AI活用エキスパートコース)3期生の成果発表会・修了式を開催しました

9月11日、副専攻(AI活用エキスパートコース)3期生の成果発表会と修了式を開催しました。このコースは、所属する学部学科の学び(主専攻)に加え、AIを活用するための知識とスキルを学ぶことができる制度です。2021年に開設され、文部科学省の「数理・データサイエンス・AI教育プログラム認定制度(応用基礎レベル)」に認定されています。今年度の修了者は78名で、累計修了者数は225名に達しました。発表会では、優秀賞に選ばれた4名が登壇し、小西学長から賞状が授与されました。修了者にはオープンバッジが発行され、学外でも学びの証明として活用できます。



建築デザイン学科 太田 裕通講師の研究室とデザインチームOKAAA+dam_が制作したストリートファニチャーが「SANCHA STREET TERRACE」に設置されました

6月29日、工学部建築デザイン学科の太田 裕通講師の研究室とデザインチーム OKAAA+dam_がコラボレーションし制作したストリートファニチャーが、三軒茶屋で開催された社会実験「SANCHA STREET TERRACE」に設置されました。このイベントは、茶沢通り(三軒茶屋銀座商店街)を歩行者中心に開放し、公共空間を活用した「街に開かれた居場所づくり」を検証する取り組みです。令和6年度に実施された「三茶ストリートファニチャーデザインコンペ」で選ばれた4作品がまちに設置されました。



<360°カメラによる計測>



▲360°カメラ、Matterportを用いた3Dモデル①

▲360°カメラ、Matterportを用いた3Dモデル②

脱炭素化の共同研究 賃貸不動産物件のCO₂排出量削減効果の可視化

工学部サステナビリティ学科の磯部 孝行准教授と株式会社市萬(東京都世田谷区、代表取締役:西島 昭)は、5月21日に脱炭素化社会の実現に向けた共同研究「賃貸不動産の原状回復における脱炭素化の研究“ビニールクロス編”」の研究成果を発表しました。本研究では、賃貸不動産物件の入退居時に大量に発生するビニールクロスの張り替えによるCO₂排出量の数値化、張り替え減などの対策によるCO₂排出量の削減効果を検証するものです。削減効果を数値化することで、不動産業界における環境対策への取り組みの推進を目的としています。



学生が鹿児島県徳之島町とパッケージを共同デザインしたアマミノクロウサギ“共生”たんかんジャムを羽田空港で先行販売

学生が鹿児島県徳之島町の特産品「たんかん」を活用した「アマミノクロウサギ共生たんかんジャム」のパッケージデザインを手がけました。1年生を対象とした学外学修プログラム「フィールド・スタディーズ」の一環として、地域住民と連携し絶滅危惧種アマミノクロウサギと農作物の共生をテーマに制作。学生たちは、ジャムを通じて共生の大切さを広め、徳之島に関心を持ってもらうことを目指しました。完成したジャムは、9月19~25日に羽田空港で開催されたJALふるさと納税フェアで先行販売しました。現在は町内の道の駅やオンラインから購入が可能です。



人とのつながりこそ最大の財産 ーウクライナ避難民学生の大学院修了セレモニーを行いましたー

9月19日、ウクライナからの避難民学生リリア モルスカさんの大学院修了セレモニーを開催しました。リリアさんは、キーウ国立大学で日本語を専攻し、日本文化への関心から本学に進学。現在はウクライナ在住者や日本に避難した人々を対象にオンライン日本語教室を運営しています。今後は、日本で広報関係の仕事しながら、日本語教室の事業拡大を目指します。小西聖子学長は、リリアさんの活動が本学のブランドステートメント「世界の幸せをカタチにする。」を体現していると評価。リリアさんは、「人とのつながりこそ最大の財産」と述べ、学びの重要性和感謝の気持ちを表明しました。



お祭りで日本の文化とともに楽しむ ー日本語コミュニケーション学科 村澤ゼミが今年で3回目となる夏祭りを築地本願寺で開催ー

9月13日、グローバル学部日本語コミュニケーション学科村澤 慶昭教授のゼミ生が、築地本願寺の蓮華殿で「夏祭り」を開催しました。先輩たちの意志を引き継いだこのゼミ活動は、今年で3回目の実施となります。地域に住む日本人の子どもたちも、ルーツが多様な子どもたちも、日本のお祭りを同時に体験することで思い出を共有できるように企画されています。当日は日本語コミュニケーション学科の他のゼミに所属する学生や、法律学科の学生も活動に加わり、ゼミや学科の枠を超えた活動で学内の輪を広げることもできました。



建学の精神

廣瀬 舟雲
教育学部 教授
廣瀬 裕之

理想と人格

高楠順次郎先生が私たちに投げかける宿題

武蔵野大学 通信教育部 人間科学部 講師 亀山 光明



武蔵野キャンパスにある三宝塔(さんぼうとう)
4本の白い柱は四弘誓願、宙に浮かぶ3つの灯は三帰依(仏・法・僧の「三宝」に帰依すること)を表している

「理想が高まるに従って人格が高まり、人格が高まるに従って高い理想が現出する」。これは、仏教による人格教育を建学の精神に据えた武蔵野大学の学祖・高楠順次郎先生の言葉です。今年、私は武蔵野大学に着任し、授業や学生との対話を通してこの建学の精神に触れてきました。その中で最も心に残ったのが「理想」という言葉でした。

では、理想とは何でしょうか。「あなたの理想は何ですか？」と問われたとき、すぐに答えられる人は多くないかもしれません。「理想なんて現実離れしている」「所詮、理想論にすぎない」といった声が頭をよぎることもあるでしょう。現実の困難に打ちのめされ、夢や目標を諦めてしまった経験は誰しもが持っているはずで、格差や差別、戦争や環境問題が渦巻く世界で、私たちはどうすれば理想を持ち続けられるのでしょうか。

高楠先生にとっての理想は、自尊の人格を仰ぎ、その完成を目指すことでした。そう聞くと、理想という言葉が自分には縁遠く思えるかもしれません。しかし理想とは、必ずしも高邁なもの

である必要はありません。高楠先生は「蟹はその甲羅に似せて穴を掘る」と喩え、まずは自分の身の丈に合った理想でよいと説いています。

たとえば、武蔵野大学はいまや総合大学として多様な学びの場を有しています。それぞれの分野に、それぞれの理想があるでしょう。近年、本学が重視する「ウェルビーイング」や「SDGs」もまた理想の姿の一つです。そして学生一人ひとりに「世の役に立ちたい」といったものから「健康でいたい」「経済的に安定したい」「幸せな家庭を築きたい」といった多様な理想があるはずです。

ときに、それらは利己的で自己本位なものに見えるかもしれませんが、そうした理想はどうすれば他者や世界に開かれていくのでしょうか。高楠先生は自らの理想と他者の幸せは究極的には一致しなければならぬと強調しています。「ここである他者とは仏教の言葉でいう「衆生」、すべてのいのちを指しています。自己の理想と世界の幸福が交わる時、理想は高まり、人格もまた磨かれていくのです。

ビジネスを例に考えてみましょう。利潤追求は企業活動の理想の一つかもしれませんが、しかし、その成果が世界の幸福と一致しないならば、現状に安住することはできません。中央商業学校現(中央学院大学)の創設にも携わった高楠先生は「お経と算盤」を支柱に近代的な商業行為に倫理的基盤を与えようとした。まさに自己の理想を世界の幸福へとつなげようとする実践です。

高楠先生の言葉は、私たちが自らの理想や幸せを追い求めるときに、どうすればそれが他者の幸せと結びつくのかを問い続けるよう促しています。では、皆さんの理想は何でしょうか。その理想は、どのようにすれば世界の幸せと交わりうるのでしょうか。もちろん、容易な道ではありません。この問いは、今を生きる私たち一人ひとりに託された、解かれることのない宿題です。

建学の精神としての四弘誓願

武蔵野大学の建学の精神は、仏教の根本にある四弘誓願に表されています。

衆生無辺誓願度

煩惱無數誓願断

法門無尽誓願学

仏道無上誓願成

この世界 があるがままの真実に 学び 人格向上の道を とともに 歩みたい

四弘誓願は、大乘仏教において菩薩がまず立てる四つの誓いであり、仏教の根本原理にして、すべての衆生を救おうとする慈悲のあらわれとされます。その精神を建学の中心に据えた本学の現代的理解において、とりわけ「ともに」という言葉は重みを持つと思います。理想と人格の向上は一人ですべて完結するのではなく、互いに学び合い、共に歩む営みの中で育まれるのです。理想を持ち続けることは自分を磨く力となり、磨かれた人格は新しい理想を生み出します。四弘誓願は、そうした向上の歩みを示す、建学の精神の根幹なのです。

学校法人武蔵野大学 後援会

会長就任の挨拶と後援会の活動について

このたび、武蔵野大学後援会会長を拝命いたしました佐野幸雄でございます。これまで副会長として活動に携わってまいりましたが、会長として重責を担うこととなり、身の引き締まる思いでございます。会長としての責務を果たし、誠心誠意尽力してまいります。

後援会は、大学・高等学校・中学校・幼稚園・こども園に在籍するお子さまの保護者全員で構成される「保護者の会」であり、皆さまからお預かりした会費をもとに、「教育活動の充実」「学生・生徒等の支援」「教育環境の整備」に取り組んでおります。主な活動の一つに、家計が急変し修学が困難となった学生への奨学金給付があり、経済的事情に左右されず学びを継続できるよう支援しております。

また、大学説明や保護者面談会では、学長や教員による教育方針・学生生活・就職支援に関する説明を動画や対面で実施し、保護者の皆さまに大学の現状を直接ご理解いただける機会を設けております。さらに、各学科の紹介資料や説明動画を保護者専用サイトに掲載し、いつでもご覧いただけるよう工夫しております。加えて、年2回の教養講座も特色ある活動です。



学校法人武蔵野大学
後援会 会長 佐野 幸雄

副会長の挨拶

昨年度に引き続き、武蔵野大学後援会副会長を務めさせていただきました田中清進と申します。今年度も後援会の一助となるよう尽力いたしますので、何卒よろしくお願ひ申し上げます。

先日、後援会活動の一環である龍谷総合学園関東地区三校合同保護者会の協議会に出席いたしました。「他者とのコミュニケーション」という協議テーマで、SNSなどでのコミュニケーションが増える中での課題などについて話し合われましたが、昨今の情勢では、他者ならぬ生成AIとのコミュニケーションが協議

副会長就任の挨拶

このたび武蔵野大学後援会副会長を拝命いたしました中野新吾と申します。到底見合わない役職と感じながらも、せっかくのご縁と考え、僭越ながらお引き受けする次第です。学生・生徒・園児のみなさまが快適にそして有意義な学園生活を送れるようほんの少しでもお役に立つことができれば幸いです。

長い人生の中でも、大学生生活は個々の成長はもちろんのこと社会性を身につける上で貴重な時期にあたります。100年を超える伝統と実績をもつ武蔵野大学のご縁に息子ともども感謝しつつ、今後ますますの発展に期待



学校法人武蔵野大学
後援会 副会長 中野 新吾



学校法人武蔵野大学
後援会 副会長 田中 清進

テーマとなる日も近いのではとも思いました。末筆ながら、学校法人武蔵野大学の益々のご発展と皆様のご健勝を念じ申し上げ、ご挨拶とさせていただきます。

するものです。私自身もその下支えに参加できることを誇りに思えるよう尽力いたす所存です。微力ではございますが、みなさまのご指導を仰ぎながら重責を果たして参ります。今後ともよろしくお願い申し上げます。

保護者の皆さまへ

令和7年度定期総会を開催しました

令和7年度後援会定期総会は、インターネットと郵送による総会とさせていただきました。総会資料は、自由に閲覧していただけるよう、後援会ホームページに掲載しました。インターネットにてご回答いただき、以下の議題についてご承認をいただきました。

議題

1. 後援会規約等について
2. 令和6年度事業報告について
3. 令和6年度会計報告について
4. 令和6年度監査報告について
5. 令和7年度役員改選(案)について
6. 令和7年度事業計画(案)について
7. 令和7年度予算(案)について

龍谷総合学園関東地区合同保護者懇談会

令和7年7月5日(土)、龍谷総合学園関東地区三校合同保護者懇談会が御茶ノ水ガーデンパレスにて開催されました。協議会では、幹事校の千代田中学校・高等学校をはじめ、国府台女子学院、武蔵野大学中学校・高等学校の各校が、今年度の龍谷総合学園の共通テーマ「他者とのコミュニケーション」について、それぞれの取り組みや考えを発表しました。

武蔵野大学中高からは、現代社会における人間関係の変化に着目した視点が見られました。コロナ禍を経て、直接顔を合わせる機会が減り、SNSなどを通じたやり取りが増える中で、言葉や気持ちのすれ違いが生じやすくなっているという背景を踏まえ、今の時代だからこそ「他者とのコミュニケーション」について改めて考える必要があるとの意見が述べられました。

個別面談について

個別面談の対象の保護者の方には、予約開始時期に合わせて予約案内を郵送いたしました。

個別面談の実施学科一覧

キャンパス	実施日	対象学部	対象学科	対象学年
武蔵野	10/11(土) ＜摩耶祭＞	文学部	日本文学文化学科	全学年
		アントレプレナーシップ学部	アントレプレナーシップ学科	全学年
		人間科学部	社会福祉学科	1・2年生
		ウェルビーイング学部	ウェルビーイング学科	1・2年生
		工学部	建築デザイン学科	1・2年生
		教育学部	教育学科	1・2・3年生
			幼児教育学科	2・3年生
		薬学部	薬学科	1・4・5年生
有明	11/15(土) ＜黎明祭＞	法学部	法律学科	1・2年生
			政治学科	1・2年生
		経済学部	経済学科	1・2年生
		経営学部	経営学科	1・2年生
	11/16(日) ＜黎明祭＞		会計ガバナンス学科	1・2年生
		データサイエンス学部	データサイエンス学科	全学年
		グローバル学部	グローバルコミュニケーション学科	1・2・3年生
			日本語コミュニケーション学科	1・2年生
			グローバルビジネス学科	1・2年生
		人間科学部	人間科学科	1・2年生
		工学部	サステナビリティ学科	1・2年生
			数理工学科	1・2年生
		看護学部	看護学科	1・2年生

※アントレプレナーシップ学科、経済学科、会計ガバナンス学科、データサイエンス学科はオンライン面談のみ ※政治学科は対面面談のみ

令和7年度後援会主催 教養講座の開催について

後援会主催の教養講座は、毎年2回武蔵野キャンパス雪頂講堂にて開催し、保護者をはじめ多くの皆さまに大変ご好評いただいています。昭和52年冬に第1回を開催して以降、令和7年に第94回を迎える大変歴史のある講座です。講演者も作家、俳優、アナウンサー、学者や評論家など多岐にわたり、講演のみならず過去には演劇や音楽、落語などもお楽しみいただいています。

第93回教養講座については、朗読塾・チームいちばん星による朗読劇『いのちのいろえんぴつ』を上演しました。

第93回教養講座

令和7年6月7日(土)

朗読劇『いのちのいろえんぴつ』

朗読塾・チームいちばん星



令和7年6月7日、初夏の陽射しがキャンパスの木々を照らす午後、武蔵野大学武蔵野キャンパス雪頂講堂にて、朗読塾・チームいちばん星による朗読劇『いのちのいろえんぴつ』が上演されました。北海道から来訪した僧侶たちによる朗読は、映像・音楽・照明と融合し、観客の心に静かな感動を呼び起こしました。

物語は、北海道の小さな町で暮らす11歳の少女・豊島加純さんの実話をもとにしています。加純さんは、病と向き合いながらも学校生活を楽しみ、保育士になるという夢を語り、色鉛筆で「12色の線」を描きまわっていました。それぞれの線はクラスメイトを象徴しており、仲間への思いと命の輝きが込められていました。病状が進行する中でも、加純さんは希望を持ち続け、家族や友人に感謝の言葉を伝えながら、秋の夕暮れに静かにその短い生涯を閉じました。会場では、すずり泣く声があちこちから聞こえ、命の尊さに静かに向き合う時間となりました。朗読劇の終幕には、チームいちばん星の豊田靖史さんによる法話が行われ、「命の終わりに順番がない」という言葉を通して、日々の出会いの尊さと「ありがとう」という言葉の力について語られました。その言葉は、言われた人だけでなく、口にした自分自身の心も豊かにすると説かれ、命の儚さを知るからこそ、今日という日に感謝を伝えることの大切さが胸に響きました。



現在もオンラインデマンド配信も行っており、ますので、右記二次元コードよりご視聴ください。



第94回教養講座 令和7年12月13日(土)

「なぜ若者はオーバードーズをするのか？ ～市販薬乱用の理解と援助～」

講師：松本 俊彦氏

次回、第94回教養講座は令和7年12月13日に国立精神・神経医療研究センター精神保健研究所 薬物依存研究部 部長、薬物依存症センター センター長を兼任されている松本俊彦先生に講演をお願いしております。

随時更新しておりますので
ご確認ください。



後援会ホームページ

<https://www.musashino-u.ac.jp/kouenkai/>